

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聴覚・ろう重複センターすぎな		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日	~	2025年 11月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日	~	2025年 11月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 19日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1人ひとりの子どもたちの様子に合わせて個室や広い活動室を使っている。 カレンダーや一日の予定、時計等、可視化した情報を大部屋内の一か所にまとめて設置している。	遊びの内容や集中できる環境等、子どもたちの様子を見て使う部屋を声掛けしている。 イラストや写真を使い、テープで線引きして情報を整理し、子どもたちに分かりやすいようにしている。	子どもたちの様子を見て、掲示物の大きさや形、場所など、より分かりやすい環境を模索する。
2	一人ひとりの思いに寄り添った対応を心がけている。	ご本人の気持ちに寄り添っていけるように視覚的に分かりやすいものを使いながら声掛けをしている。 おやつ作り等、やりたいことは可能な限り子どもたち自身で選択、実行できるようにしている。	一人ひとりに合ったものを提示していくようにご本人の様子を見て、工夫し続けていく。気持ちに寄り添いながら共感していく。 やりたいことができる環境を整え、失敗も含めた見守る支援も大切にする。
3	日頃から子どもの様子や支援についてスタッフや保護者と情報共有ができている。	日々の報告LINEに加えて、必要に応じて電話や対面等で保護者と情報共有をしている。 その日勤務しているスタッフが利用の子どもの支援ポイントを確認した上で、支援にあたっている。	保護者の思いも適時確認し、より良い支援に繋げていく。 支援について知っているだろう、分かっているだろうではなく、日頃から職員がスタッフに支援ポイントを伝え、確認していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現場の人員は十分であるが、マンツーマン対応の子どもも多いため、正職員や児童指導員の数が少ない。	アルバイトスタッフの年齢層に偏りがある。	児童指導員の育成や人員の確保。 また、支援の質を向上していくために支援や障害について学ぶ研修の機会の確保。
2	地域交流の機会が少ない。	平日公園に行きたい子が少ない。 また、地域交流の一つとして福祉フェスタはあるが、子どもたちの参加は少ない。	福祉フェスタだけでは子どもたちの参加率としては低いため、地域交流ができる企画等の検討。
3	兄弟児との交流がない。	親子参加企画（デフバレー）はあったが、その際兄弟児への参加について呼びかけたが周知までは至らなかった。	兄弟児も参加、交流できる企画等の検討し、企画をやる際は積極的な周知を図っていく。